

横浜市立能見台南小学校 学校評価報告書（平成30年度）

重点取組分野	平成30年度	
	具体的取組	自己評価結果
確かな学力	①学力・学習状況調査の分析結果を生かして、自ら考え、学ぶ力を伸ばせるような授業づくりを図る。 ②問題解決の過程を大切に、すすんで調べ、まとめたものを、多様な方法で発表することを重視した学習を工夫する。	①日常の授業の中で、個々の児童がすすんで考えられるような授業づくりや展開を意識した。学力・学習状況調査の結果は十分に生かすことができなかった。②問題解決学習、ユニバーサルデザインを意識して授業改革に取り組んだ。発表・プレゼンテーションの力は徐々に進歩してきたと評価できるが、ややパターン化している部分もあり、多様さや柔軟さには課題が残る。
豊かな心	①全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。特に今年度は、「特別の教科 道徳」の授業の充実に努める。②なかよし活動を学校の特色の一つとして位置づけ、異学年交流を通して豊かな人間関係を育む。③人権感覚が育成されるような授業を意識して取り入れる。	①新しい道徳教科書によるカリキュラムを編成し、各学級、週1時間の授業の充実に努めた。②年間計画をもとにして計画的に実践できた。運動会の座席をなかよし学年で設定するなど、新しいことにも取り組んだ。また、その他の異学年交流も、教科学習を通して行った。③相手の気持ちを考えることができる児童を育てることができるよう、学年がチームとなって取り組むことができた。
健やかな体	①体育の学習指導の充実、「体育・健康プラン」による実践を通して、子どもたちの体力向上を図る。 ②早寝・早起き・朝食等の規則正しい生活を推進する。	①運動委員会主催で長縄集会、鉄棒月間、短縄月間、しっぽりおにごっこ集会、ドッジボール集会を実施した。異学年との交流も取り入れたことにより、楽しみながら活動に参加している児童が多かった。②保健委員会が手洗いうがい等を全校に呼びかける活動を行った。早寝、早起き、朝食については、各家庭との連携が十分にとれていたとは言えず課題として残る。
児童生徒指導	①気持ちのよい挨拶、校舎内の歩行の仕方について、常に丁寧に指導する。 ②Y-Pアセスメントを効果的に活用し、子ども自身が「自分づくり」「仲間づくり」「集団づくり」をしていくことができる学級・学校づくりを推進する。	①朝会での話や各学級・各学年で、様々なあいさつの場面を想定し継続的に指導してきた。校内でのあいさつは身につけてきている。学校外でもあいさつができるよう今後も指導していく。また、校内の廊下歩行については、十分に定着しているとはいえないので、粘り強く指導を続けていく。 ②児童指導会議や職員研修のなかで、Y-Pアセスメントの活用や学年間での支援検討会を通して、学年・学級で決めたプログラムを実施しながら、学級・学年経営に生かすことができた。
地域連携	①学援隊による見守り、読み聞かせ、栽培活動、音楽会によるふれあい活動の充実を図る。 ②地域行事への職員の積極的な参加を図る。 ③総合的な学習の時間を中心に、地域とのかかわりを取り入れた学習を地域の方々との連絡を密にしながら計画的に行う。	①どの活動も地域や保護者のボランティアの方々から「南小応援団」として献身的に協力的にしてください、充実した活動ができた。 ②各地域の行事へ、職員が計画的に参加することができた。③3年生の和太鼓演奏や、4年生の火の用心、5年生のもちつき体験など、総合的な学習を地域の方々との協力を得ながら行うということが学校として定着してきた。
特別支援教育	①教室の環境整備も含めて、ユニバーサルデザインの視点に基づく授業の実施を推進する。②外部関係機関との連携を密にし、児童理解を深め、適切な支援を行う。③職員研修を充実させ、様々な発達課題に対する正しい知識・理解を深める。④特別支援担当をおき、よりきめ細かい指導を行う。	①教室環境を整え、単元や1時間の授業の流れを提示することで、子どもたちが安心して学習に取り組むことができていく。学校カウンセラーをはじめ、特設センターや療育センター、区保健福祉センターや児童相談所等と、適切な支援のための機関連携を行った。③だれもが安心して過ごすことのできる学級風土づくりについて研修を行い、学級経営のなかで実践した。④不登校・登校しぶりの児童やその保護者に対して、個に応じた支援や働きかけを継続的に行った。
安全指導	①避難訓練や防犯訓練を実態に合ったものにし、充実を図る。 ②校内の学校安全研修の充実を図り、日々安全確認をしたり危険を予測したりしながら、子どもたちの安全を守るようにする。 ③地域や警察等、関係機関との連携を密にする。	①年間計画をもとに、より実態に合った避難訓練になるように改善した。②学校安全に関する研修を通して、共通理解する場を多く設け、意識の向上を図った。③昨年度から引き続き、地域や警察と安全に関する情報共有や対応の連携を図った。
いじめへの対応	①学年を中心に職員間での情報交換を密に行ったり、毎月の生活アンケート後の聞き取りを丁寧に行ったりしながら、児童の困り感や小さな変化にも早く気付けるようにする。②「特別の教科 道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自らの考えを深める力を育む学習を用意する。③いじめが起きにくい学校風土をつくるため、特別委員会を立ち上げ、児童の主体的な活動を生かした、いじめの未然防止に努める。	①日々学年間での情報交換を密に行い、毎月全職員での情報共有を定期的に行ってきた。また、生活アンケートから児童の困り感や思いを把握し、その後の面談や指導を通じて、問題の早期解決につながった。 ②自己のふり返りを開示する時間を大切に、様々な考え方にふれ、それを受容する心を育めるよう意識してきた。 ③南小スマイルプロジェクトを立ち上げ、あいさつ運動を中心に、いじめの起きにくい学校風土をつくるための主体的な取り組みを進めた。
人材育成・組織運営	①学校教育目標に沿った全教科の新教育課程を編成していく。 ②年間3回の算数科授業研究会を実施し、思考力を養う授業づくりの研究をすすめる。③若手教員の教師力を高めるため、学年内のOJTを充実化するとともに、メンターチームを結成し、授業力の向上を図る。④職員室業務アシスタントの配置により、教職員の業務を精選し、専門性の向上を図る。	①教育課程の編成については、学校の実状や課題を話し合い、根本になる学校教育目標の作成と一部カリキュラムの編成までを行った。②年間3回の算数科授業研究会を行い、課題解決学習についての研究を行った。教育課程編成との2部構成にやや無理があり、十分には深められなかった。③メンターチームは定期的に研修を積み、授業研究会を通して授業づくり、授業力向上に向けて意欲を高めた。④業務アシスタントを有効に活用し、業務のスリム化がすすめられた。
ブロック内相互評価後の振り返り	・小中ブロック合同の研修会を行い、現在のブロック内の子どもたちのよさや課題について話し合ったことで、ブロック内の子どもたちの現状や課題について共通理解することができた。 ・教務主任会では、研修会での話し合い結果をもとに、これまで目指していた「ブロック9年間で育てたい子ども像」についての見直しを図り、現時点での新たな育てたい子ども像を焦点化していくことができた。 ・地域と連携した学習や行事の取り組み、学校ホームページでの情報発信などが社会に開かれた教育課程の運営改善に努めていると評価を得ることができ、来年度も充実させていきたい。	
学校関係者評価	・児童にも職員にも告知なしの避難訓練を行っていること、それをもとに避難や安全確認の仕方について改善を図っていることなどが、学校全体の安全意識を高めていてとてもよい。 ・学校内でも地域でも挨拶をする児童が増えたと感じる。今後子どもたちの挨拶を広げていくためには、地域の大人も子どもと顔を近づけ努力をしなければいけない。 ・地域と連携した行事や学習が定着してきたことは、学校が地域に興味をもっていることの表れでもあり、地域としても有り難い。	
学校経営中期取組目標振り返り	・「まちとともに歩む学校づくり懇話会」を起点として、地域の材を生かした学習や学校行事を行うことができ、地域との連携を深めることができた一年となった。今後、地域との連携の枠をさらに広げ、社会に開かれた教育課程の創造に努めたい。 ・子どもたちの柔軟な表現力の育成や、健康への意識の向上という点においては十分とは言えず課題が残るので、今後の新教育課程の編成の中でも重点的に手立てを考えて盛り込んでいきたい。 ・来年度の学校運営協議会の設置に向けて意見交換を行い、大きく前進した一年であった。	